

## 地方公共団体等による先進的な自然環境関連調査事例

	特徴	内容
北海道	野生生物に関するデータ整備とGISによる解析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型哺乳類（ヒグマ、エゾシカ）の捕獲個体のデータの収集・分析（北海道狩猟管理システム）、テレメトリー調査、ライトセンサス調査等により、生息数、生息分布域、密度、妊娠率、齢査定、生存曲線、栄養診断等のデータが得られており、GIS 経年分布データと併せて解析し、科学的保護管理の実施を行っている。</li> <li>・緑環境の現状を把握する「緑の環境軸」構想を1999年から着手し、衛星画像、現在の自然植生、気温、降水・積雪量等から原植生図を復元したり、過去の地形図等を参考にして100年前の植生図（土地利用図）を復元する作業も進めている。</li> <li>・こうしたGISを駆使した様々な解析は野生生物の保護管理だけでなく、保護区の指定や回廊の設定に役立つ。</li> </ul>
福井県	全種分布調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和48年より2kmメッシュの自然環境調査（哺乳類、鳥類、両生類、淡水魚類、陸産・淡水産貝類、付着藻群落、昆虫類、植生、地形地質、渡り鳥中継地、集団営巣地等）を行っており、県独自の調査としては先駆的。</li> <li>・これまでの調査結果は「みどりのデータバンク」として整備し、分布域、種の個別情報等をインターネットにて公開している。</li> </ul>
長野県 (植物誌編纂委員会)	標本に基づく植物種データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県内のすべての高等植物（シダ及び種子植物）2,506種について、標本を基にデータベースを整理し、植物誌を作成している。種ごとに簡単な記載と標本データが示され、変種レベルまで検索表が提示されている。</li> <li>・掲載種の約1/3の種については、データベースに基づく水平分布図、南北・東西方向の垂直分布図（5kmメッシュ）が示されている。</li> <li>・その他、植物地理、保護状態、藻類やコケ類などにかかる記述もあり、一つの県下を対象としたものとしてはレベルの高いものである。</li> </ul>
東京都	樹木量調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・'91東京都緑の倍增計画の一環として、東京都の市街化区域内にある市街地を対象に樹木量の調査を実施している。</li> <li>・高木・低木別に単位面積あたりの平均本数を航空写真と現地調査により把握することで市街化区域全体の樹木本数を推計するという手法がとられており、S58年、S62年、H3年と行っている。</li> <li>・S58年には1億本と推計され、その2倍の2億本に向けて都市緑化が行われている。</li> </ul>
兵庫県 (人と自然の博物館)	GISデータの収集整備による希少種の重要生息地の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GISデータとして、これまで行われた大学・自治体・国の調査結果に博物館の資料、一般市民の情報等を網羅的に収集し、そのデータを使用して希少生物分布図や複数の希少種が高密度に出現する地点等を抽出している。</li> <li>・シミュレーションにより希少生物等が生息するのに適した場所の推定等も行い、保護管理計画立案のためのデータとしての活用も可能。</li> <li>・瀬戸内海周辺の各県立博物館で蓄積されているデータをネットワークでつなぎ、インターネットGISで他県情報を引き出すことができるプロジェクトも5月より開始する。</li> </ul>